

令和 3 年 第 5 回  
富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

令和3年4月22日(木)

開会午後3時30分、閉会午後4時20分

II 場所

教育文化会館集会室

III 出席委員

1番	山崎 弘一	2番	鳥海 清司	3番	町野 利道
4番	村上 美也子	5番	大西 ゆかり	教育長	荻布 佳子

IV 説明出席者

教育次長	清原 明宏	教育次長	坪池 宏
教育企画課長	松井 邦弘	生涯学習・文化財室長	吉田 学
教職員課長	福島 潔	県立学校課長	佐野 友昭
小中学校課長	水戸 英之	保健体育課長	橋本 隆

V 傍聴人数 1人

VI 会議の要旨

午後3時30分、教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

(令和3年3月11日開催の令和3年第3回富山県教育委員会会議録)

(令和3年3月19日開催の令和3年第4回富山県教育委員会会議録)

会議録閲覧

荻布教育長から可否を諮ったところ、全員異議なく承認した。

2 報告事項

(1) 臨時代理について(富山県庁議運営規程及び富山県次長会議運営規程一部改正の件)

教育企画課長から説明した。

(2) 令和3年度富山県公立学校新規採用教員配置状況について

教職員課長から説明した。

(3) 令和4年度富山県公立学校教員採用選考検査について

教職員課長から説明した。

(4) 公立小学校の廃止について

小中学校課長から説明した。

3 その他

今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹から説明した。

4 議決事項

午後4時0分、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定に基づき、議案第20号及び議案第21号については、委員全員の同意により会議を非公開とすることを可決し、議事の審議に入った。

議案第20号 令和4年度使用義務教育諸学校用教科用図書の採択に係る諮問事項の件

議案第21号 令和3年度富山県教科用図書選定審議会委員任命の件

小中学校課長より説明し、原案のとおり可決した。

なお、非公開で審議した議案第20号及び議案第21号については、適切な時期に公表することを決定した。

## 5 議事

### ○報告事項について

#### 報告事項 (3) 関係

##### 〔烏海委員〕

- ・特別選考「大学推薦」枠が、これまで2名だったところ5名となり、学生としては一段とやる気になり、教員を目指すところで励みになるので良かったと思っている。また、「情報」免許所有者の確保について、一般選考の中高の「情報」の受検資格要件の緩和がある。これまでは2科目の教員免許を持っていないければならず、しかも「情報」はそれほど人数が必要でないという現状があったため、だんだんと養成を止めていったという経緯があった。資格要件を緩和するという事は、養成者を増やすというところで非常に有効だと思う。今度、高等学校で必須履修化され「情報」の免許を持つ教員が必要になることであろうが、実際には富山県全体で「情報」の免許を持っている教員が何名くらい必要なのか、どれくらい足りないのか教えてほしい。また、どれくらい確保できそうかという見込みがあったら教えてほしい。

##### 〔教職員課長〕

- ・平成15年実施試験以降、「情報」の科目で採用した教員は14名いる。しかし、複数免許を所持している兼ね合いもあり、必ずしも全員が「情報」の科目を担当していない。今後はそのようなことのないよう「情報」の教員を確保し、「情報」の科目を担当してもらうことになっていると思っている。一方、「情報」として採用されていないが、「情報」の免許を所有し「情報」を教えている方が30名、その他、免許外や臨時免許で対応している方が42名いる。ただ、単純に足し合わせた人数が必要数ということではなく、非常勤で対応していることもあり、あと何人必要かすぐにはお答えしかねる。いずれにしても全然足りないということであり、この後採用を確保していかななくてはいけない。今回見直しを行ったが、これが十分とは思っていない。この見直しによって何人の採用が確保できるかは今のところ雲をつかむようなイメージである。昨年度「情報」として採用した人間は1名だった。実務経験の「社会人経験B」でどれ位の受検者数が期待できるか、複数免許要件の廃止によってどれだけの受検者が確保できるかということについても何とも申し上げられないが、少なくとも受検者は増えてほしいと思っている。教育課程の関係や各県も同様の状況があると思うので、また競争が発生する。少なくとも引き続き採用促進していきたいと思っている。明確にお答えできなくて申し訳ない。

##### 〔烏海委員〕

- ・多分大量に必要なという気がしているが、教員を養成する大学側は急には養成できないというところもある。養成を止めているところも多くなっていると思う。「社会人経験」の採用として、県内でもIT関係の企業などがたくさんあるので、連携を取って何人か教員としてまわしてもらうとか、一時的にでもまわってもらうことが方策としてできれば、少しは確保しやすいのかなと思う。

##### 〔教育長〕

- ・まずはやれることをどんどんやっというスタートだと思う。

##### 〔山崎委員〕

- ・「情報」の選考検査について、この要件を設けたことは良いことだと思う。今の話にもあったが、そもそも「情報」でどれだけの人員が必要になるのか。高校では来年度から情報Iが必要になり、今まで習わなくてもよかったプログラミングを全員が習うことになる。各学校でどれくらい授業時間数が必要になるのか。単位数でもいいが見込みはどうか。これまでも情報は選択必修の形で行われているが、大きな学校であれば情報を担当する教員の授業時間数が多くなるが、小さな学校だとそんなに授業時間数がない。そういうことから「情報」専門教員を配置できないことも起きていると思う。今後、情報の授業数が増えてくるのであればどの学校でも情報教員が必要になってくると思う。そういった点についてはどうか。

##### 〔県立学校課長〕

- ・情報Iが新しい学習指導要領で全員必修になり、その中で今ご指摘のあったようにプログラミング教育など「情報」の科学的理解の部分のウェイトが非常に高くなり内容がかなり専門的になってくる。標準単位数が2単位なので年間を通して70時間の授業が必要となってくる。70時間の内訳等は各学校がプログラミングをどのくらい配当するか、これから指導計画を立てていく段階かと思う。学級数と標準単位数の兼ね合いで、例えば4学級規模の学校ではトータルで8単位時間有効になるので、そのあたりが今後問題に

なってくるのかと思う。

〔山崎委員〕

- ・その学校で扱う「情報」の時間が少ない場合は、情報で配置された人は少ない時間だけ授業をやればよいことになるので、そういった点も考慮して、見通しを立てて採用したらいいのではないかと思う。

#### 報告事項(2) 関係

〔鳥海委員〕

- ・新規採用の教員数は、小学校の採用者で男性 64 (4) 女性が 111 (11) となっており、備考に教職経験者 11、大学推薦者 4 となっている。たまたま数字が合っただけで、男性 (4) が全部大学推薦、女性 (11) が全部教職経験者ということではないのですね。

〔教職員課長〕

- ・そうである。

#### 報告事項(4) 関係

〔山崎委員〕

- ・小学校の廃止に関して、廃止されてない学校はいくつあるか。現在も休校中という小学校は何校あるのか。廃止でも休止でもない学校は何校あるか。

〔小中学校課長〕

- ・廃止でも休止でもない学校になっているところはないが、現在休校の扱いになっている学校については県内で小学校について 2 校ある。上市町と立山町に 1 校ずつある。

〔山崎委員〕

- ・全体で学校数は何校あるのか。

〔小中学校課長〕

- ・小学校は分校を含めて 177 校、中学校は分校 1 含めて 75 校、義務教育学校が本年度から 3 校という状況になっている。

〔山崎委員〕

- ・以前 200 校あった時代がもう 170 に減ってきたのか。

〔小中学校課長〕

- ・そうである。

午後 4 時 20 分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。